

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	10 月	10 日	記入者	春日由広
調査者名	春日	仲谷	西田	安川	

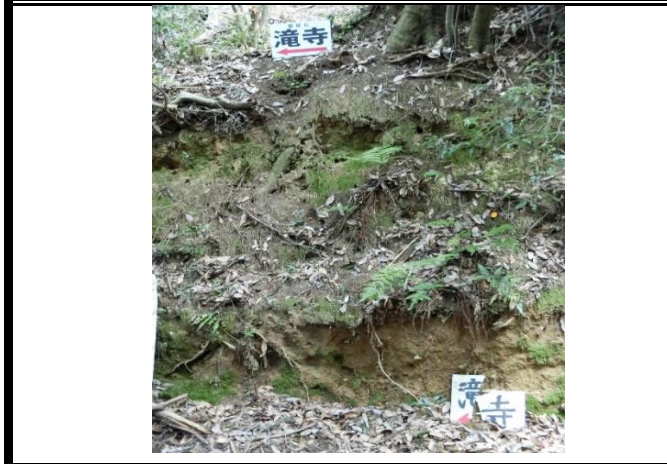
文化財名	滝寺の磨崖仏				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1979年(昭和54)3月23日				
所在地	奈良市大和田町滝臺1640番地の2				
所有者 管理者	大和田町				
員数					
時代区分					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り。(矢田山遊びの森公園の駐車場から磨崖仏へ向かう山道の分岐点に1カ所)				
公開	見学は自由にできる。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	遊びの森公園駐車場から磨崖仏へ到着するまでに案内板が1カ所しかない。迷わずに到着するため数カ所の案内板の設置を希望する。				
今後の課題	磨崖仏は厳しい自然環境の中で奈良時代から立っている。風化のためによく分からない状態なので、説明板に当時の磨崖仏全体図の設置を希望する。難航が予測されるが、これ以上の剥落を防ぐため、現状維持の対策が必要である。。				
その他 (由緒など)	磨崖仏は幅約3.5m、高さ約3.3mの自然石に彫刻されている。図の詳細は明らかでないが、薄肉彫りの堂塔が幾つか建ち並ぶのが認められる中に、菩薩などを浮き彫りにした仏龕が5面ある。宇陀市の飯降(いぶり)薬師の磨崖仏と並んで、日本の最も古い磨崖仏の一つである。滝寺の創建、沿革は定かではないが、付近から奈良時代の瓦の出土が認められている。				
コメント	説明板から、木々が生い茂った細い山道に入り滝寺の磨崖仏に到着する。一人なら大丈夫かなと不安になるかもしれない山道だった。周囲の自然環境から見学の時期は制限されるだろう。このような環境だが、今後も、滝寺の磨崖仏へ行ける環境整備と1300年間も自然の力に耐えている磨崖仏の保存を期待する。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	10 月	10 日	記入者	春日由広
調査者名	春日	仲谷	西田	安川	

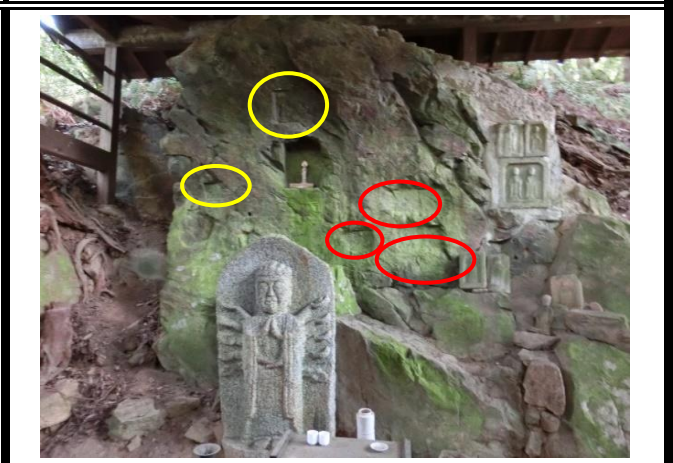
文化財名	滝寺の磨崖仏
------	--------

案内板	説明板
-----	-----



覆堂(ふくどう)正面

覆堂(ふくどう)内部



黄色○印左2カ所の拡大

赤色○印右3カ所の拡大

